

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

事業名	地域高規格道路 一般国道2号 岩国・大竹道路 <small>いわくに おおたけ</small>	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局
起終点	自：広島県大竹市小方一丁目 至：山口県岩国市山手町 <small>ひろしまけん おおたけし おがた やまぐちけん いわくに しやまてまち</small>	延長	9.8 km		
事業概要 一般国道2号は、大阪市を起点とし、瀬戸内海沿岸の諸都市を連絡し、北九州市に至る延長約670kmの主要幹線道路である。 岩国・大竹道路は、一般国道2号の混雑の緩和及び交通安全の確保を図るとともに、広島県と山口県の広域的な連携・交流・連結機能を図ることを目的としている。 <small>おおさか きたきゅうしゅう</small>					
H13年事業着手		H12年度都市計画決定		H15年度用地着手	
全体事業費	約1,330億円	事業進捗率	8%	供用済延長	0.0 km
		(H21年度末現在)			
計画交通量	21,500 ~ 30,400 台/日				
費用対効果分析結果	B/C (3便益) 事業全体 1.1 残事業 1.4	総費用 残事業/事業全体 753 / 898 億円 事業費：718/863 億円 維持管理費：35/35 億円	総便益 残事業/事業全体 1,026 / 1,026 億円 走行時間短縮便益：811/811億円 走行費用減少便益：137/137 億円 交通事故減少便益：78/78 億円	基準年 平成22年	
感度分析の結果 ：残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C= 1.7 (交通量+10%) B/C= 1.1 (交通量-10%) 事業費変動：B/C= 1.2 (事業費+10%) B/C= 1.5 (事業費-10%) 事業期間変動：B/C= 1.3 (事業期間+20%) B/C= 1.5 (事業期間-20%)					
事業の効果等 ①円滑なモビリティの確保 ・損失時間の削減が見込まれる ・現道等における混雑時旅行速度の改善 ・岩国内内の路線バスの所要時間が短縮され利便性が向上 ・大竹市から新岩国駅（新幹線駅）へのアクセスが向上 ・大竹市から岩国空港（整備予定）へのアクセスが向上 ②物流効率化の支援 ・大竹ICから岩国港（重要港湾）へのアクセスが向上 ③都市の再生 ・山口県広域道路整備基本計画に交流促進型の広域道路として位置づけあり ④国土・地域ネットワークの構築 ・岩国市及び廿日市市の日常生活中心都市間を最短時間で連絡する ・日常活動圏の中心都市へのアクセス向上（大竹市～岩国市） ⑤個性ある地域の形成 ・地域連携プロジェクトを支援する（広島・宮島・岩国地域観光圏整備計画） ・主要な観光地へのアクセス向上（錦帯橋の年間観光客数（H21）：78万人/年） ⑥安全で安心できるくらしの確保 ・大竹市から岩国医療センター（三次医療施設）へのアクセスが向上（大竹市～岩国医療センター） ⑦災害への備え ・国道2号が山口県地域防災計画における緊急輸送道路として位置づけあり ⑧地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が見込まれる ⑨生活環境の改善・保全 ・NOx排出量の削減が見込まれる ・SPM排出量の削減が見込まれる					

関係する地方公共団体等の意見

本道路の整備により、国道2号の渋滞緩和や地域連携の強化が図られるとともに、沿線住民の利便性・安全性の向上が期待されることより、広島市をはじめとする沿線市町村から構成される「広島・岩国間バイパス期成同盟会」より、早期整備の要望を受けている。

広島県知事の意見：

一般国道2号岩国・大竹道路について、対応方針（原案）案については異存はありません。
岩国・大竹道路については、国道2号の慢性的な交通渋滞の緩和や、広島県西部と山口県東部の連携機能を向上するために、整備の必要があると考えます。
今後も引き続きコストの縮減に努めながら、計画的に整備を進めていただきたい。

山口県知事の意見：

本事業の実施により、現国道2号の渋滞緩和や交通事故の減少等が見込まれるとともに、岩国基地民間空港などの広域交通拠点へのアクセス性の向上や岩国地域と大竹地域の連携強化が期待される。
今後も、引き続き、地域の合意形成を図りながら、コスト縮減等に配慮の上、計画的に事業を進めていただきたい。

事業評価監視委員会の意見

事業者から事業の概要、評価結果及び対応方針（原案）について説明を受け、事業が適切に実施されているか審議を行い、審議の結果、再評価対象の事業は適切に実施されており、事業継続とすることとした事業者の判断は、妥当であると意見集約した。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

平成19年度に岩国南バイパスが暫定2車線で供用したが、依然現道においては慢性的な渋滞が発生し、交通事故が多発している。また、平成24年度に岩国空港が運行開始となるため、さらに交通需要が見込まれる。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成21年度末で用地買収については35%完了している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

現在は、調査設計、用地買収を行っており、早期供用を目指し、事業を推進する。

施設の構造や工法の変更等

機能分離型支承等の採用により、コスト縮減を図っている。
【約0.9億円の減少】

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。